

進路意識啓発と、三者面談時の客観的資料として『わくわく』の判定結果を活用

埼玉県立 所沢商業高等学校 和田 光春 教諭

埼玉県立所沢商業高等学校は、創立50周年を誇る伝統ある商業高校です。国際流通科、ビジネス会計科、情報処理科の3科設置しており、3年間でそれぞれの分野での専門性を高めていくことができます。指導の特色としては、資格取得とキャリア教育に特に力を入れており、就職先の企業からは即戦力の人材を育成している学校として高い評価を集めています。各学年約230名の進路状況は、例年、就職者が6割弱、進学者が4割強(そのうちの7割は専門学校)といった割合で、ここ数年は就職者が増える傾向にあるということです。今回、2年次4月に『進路適性検査わくわく』をご実施いただきました。ご活用状況につきまして、担当の和田先生にお話をお聞きしました。



一最近の生徒たちの進路意識はいかがでしょうか？

本校の生徒は、資格取得と就職を意識して入学してくるケースが多いのですが、具体的に何をしたいかと問われると、わからないと答える生徒が結構います。

また、中には就職したいのか、進学したいのかもわからない生徒もいます。卒業してからどう生きていきたいのかというビジョンがない生徒も若干名おり、指導に苦慮している点でもあります。

一進路指導は、どのような流れで行なわれますか？

本校では、2年次からのいわゆる文理クラス分けは行なっておりません。そのため、1年次では、具体的な進路指導の準備段階として、まずは教師の生徒理解と、生徒自身の進路意識の確認のため『スタート 新入生のための生徒理解調査』(実務教育出版 発行)を実施しました。

1年次はまだ具体的に進学や就職について考えるのは難しい段階ですが、進路意識の高い生徒は、夏休みから主に専門学校のオープンキャンパスや看護体験等に参加しており、意識の低い生徒との差が出ているのが現状です。

2年次に入ると進路意識が低い生徒にも、いよいよ進路選択が差し迫ってきたことを実感させるために、新学期早々の4月に『進路適性検査わくわく』を実施しました。

また、3年間を通じて、資格取得指導に力を入れています。各科によって取れる資格・指導カリキュラムは異なりますが、ワードとエクセルに関係する検定はどの科でも取得させます。最近、これまで大卒しか採用していなかった企業が、高卒も採り始めるケースが増えています。採用いただいた企業からは、卒業生について、高卒者でここまでワード・エクセルを使いこなせるのは見たことないと高評価もいただいています。

一『わくわく』採択のポイントについて、具体的にお教え下さい。

本格的な進路指導の始まる2年次の1学期に、生徒の進路意識を啓発するために『わくわく』を実施しました。ポイントは返却される判定シートの内容です。この時期に、①自分の希望進路に向けてどのように動けばいいのか、②生活をがんばる力がどれだけあるのかがわかり、さらに③職業適性、専門学校適性が表になってわかりやすい点が、職業を念頭に置いている生徒が

生徒用 進路適性検査 わくわく アドバイスシート

学年・級・番号 1年 3組 1番 氏名 実務 一夫 性別 男 実行番号 ***** 学校番号 *****

希望を実現する 『わくわくブック』の3ページをチェック!

進路希望 進路予定 ●本人 4年制大学 ●職業 未定

職業希望 ① 1. オフィスの事務の仕事 ② 5. ものをもつ仕事
③ 3. 接客の仕事 ④ 2. 建設の仕事
⑤ 4. 農林漁業の仕事

希望実現アドバイス
あなたの進路適性は、
① オフィスの事務の仕事です。
その職業の適性は高いです。

個性をみつける 『わくわくブック』の4ページをチェック!

興味プロフィール 性格プロフィール 能力プロフィール

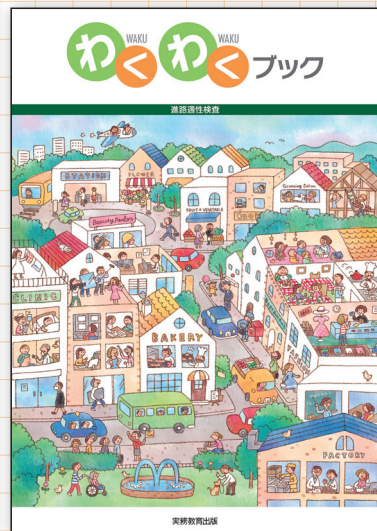
個性をみつける 『わくわくブック』の5-6ページをチェック!

進路を考える 『わくわくブック』の5ページをチェック!

進路を考える力 文理判定マップ

進路適性 大学・短大適性 専門学校適性

▼わくわくブック(生徒用)



▲『進路適性検査わくわく』(生徒用)アドバイスシート

多い本校にとっては、特に役立ちました。

自分の希望する進路への適性が低く出た生徒には「ここを直せば道は開けるよ」といったアドバイスができます。

また、進路に関して何を選んでいいのかわからないという生徒に対しては、「こういうのが向いているらしいよ」と、選択肢を明示することができるので、そのあたりも検査採択のポイントになりました。

一 『わくわく』の活用方法について、具体的にお教え下さい。

『わくわく』を2年次4月に実施した後、判定結果が戻ってきたら、6月の三者面談初日の午前中に、LHRを利用して特別時間割をつくり、生徒に判定結果をフィードバックしました。

生徒の反応は、概ね興味を持って見ていました。適性等の判定が低く出た場合でも、自分の努力次第で高くすることはできるといったアドバイスを、具体的に行ないました。

また、生徒用ガイドブック『わくわくブック』7頁のワークに取り組ませ、判定結果の理解を深めさせました。

その後、一旦回収し、午後の三者面談の場で改めて返却し、保護者の方々にもフィードバックしました。

検査に保護者向けの資料はありませんが、生徒用「ア

ドバイスシート」を説明することで、生徒の客観的な興味・性格の傾向がわかり、さらに、現在足りない部分が共通理解できる等、保護者とのコミュニケーションをとるためにも役立ちました。

一 『わくわく』ご実施後の指導効果についてお教え下さい。

本校では『わくわく』の実施は2年目で、昨年初めて実施した現3年生が今年進路を決めます。希望の進路が実現できるか、指導の効果がわかるのはこれからです。

『わくわく』の判定結果が全てではない、一つの資料に過ぎないということは生徒にはしっかり伝えていきます。指導側においても、生徒の進路の可能性や視野を広げるという点を実施の意義として検査を位置づけています。

また、興味がほとんどなく、全ての適性が低く出た生徒に対して、どのように指導すれば一番よかったのかについて反省と課題が残りました。

最後に、本校では、特に就職志望の生徒に対して、ミスマッチによる早期離職を防止するためにも、2年次の夏休みに、自分の行きたい企業を前年の求人票から探し、しっかり企業研究を進めるよう指導しています。

(令和元年7月26日取材／文責・実務教育出版 三浦俊哉)